地元の魅力　原市場の地名 第２回

　名栗川か、入間川か。風土紀稿によると久林と下名栗の境から上流を名栗川、下流を入間川としている。明治になって飯能の岩根橋付近より上流を名栗川とし、今も沿岸の人々には名栗川と呼び親しんでいる。
しかし、現在は正式には名栗川と呼ばず、水源から入間川という。二の瀬橋、石原橋には入間川の名が刻まれている。
原市場東自治会は入間川の沿岸に位置し、一の瀬橋～扇橋～二の瀬橋～大正橋～金山倉掛峠までの細長い地域である。

　飯能市原市場地区は入間川と中藤川を中にして、周囲をすべて山で囲まれている関係で、山間部特有の地形から名付けられた地名が多い。
390余りの小字名から上位10をあげれば、
1位.くぼ（久保、窪）2位.いり（入）3位.さわ（沢）4位.やま（山）
5位.ざす（指）6位.うえ,かみ（上）7位.がやと（ヶ谷戸）,たき（滝）、はら（原）
10位.と（戸）10.した,しも（下）

1位のくぼ（久保、窪）は窪地のことで、山間地で平地の少ないこの地方では、一部に窪地や平地があると、山を含んでいても〇〇窪（久保）と名付けた物が多い。平地の憧れから名付けられたものである。
2位.いり（入）入は谷の奥、山寄りの意で、小さな谷に使われている。
3位.さわ（沢）沢は谷川で、雨が降ると水の流れる窪地、ざわざわと音を立てる水音からきているという。入があればそこには必ず水が流れるので、必然的に沢の名も生まれてくる。ただ、名付けるときにどちらを主と見るかにより、〇〇入になり、△△沢になったものであろう。

　原市場の地名 第１回のがやと（ヶ谷戸）は一般に がいとと呼んでいる。
外と戸は狭戸（会と）、谷戸（会と）すなわち山間の小平地の意である。
また、垣内、垣外（かいと）もあり、境の内、または外の地域を指す。
参考：原市場地区の「地名と屋号」倉掛一男 著書

それでは、2位.いり（入）の地名について原市場地区から拾い出す。
・鹿ノヶ入（カノガイリ）中橋の南、鹿野は狩野（焼畑）をいうのであろう。
・橋ノ入（ハシノイリ）日枝峠の西方、麓フモトの橋の奥の意であろう。
・滝ノ入（タキノイリ）坂下の西、中居の北の山。
・松ヶ入（マツガイリ）助ヶ谷戸の裏山。麓は平として利用されたであろう。

・麦ノ入(タキノイリ)内出、登戸の西に、大きめの沢がある嶮しい山で、「山肌をむき出した地形の意」、入はここでは奥地とうけとれる。
・宮ノ入(ミヤノイリ)青梅、大谷の南の山中。南が蕨川、北は妻沢の源流に接している。天神峠が北東にあるので、天神様の宮の入。
・入（イリ）仁田山の入。沢が深く、平もある。
・滝ノ入(タキノイリ)下赤工の西はずれ、道ばたに荒沢不動が祀られ、小さな滝がある。その沢を境に上、下赤工の滝ノ入となる。
・戸谷入(トヤイリ)大沢の東、ここに上赤工の飛地戸谷入がある。
・芳ノ入(ヨシノイリ)戸谷入の東、葭(ヨシ、アシ)ノ入であろう。
このあたりの入は漠然と奥地をいっていることが多い。
・峯ノ入(ミネノイリ) 芳ノ入の東。
・井戸入(イドイリ)西方に場所が移り、矢ノ越の南になる。矢ノ越へんは水が豊富で排水に苦労するほどであった。その水源地が井戸入という。
・戸谷入(トヤイリ)下赤工戸谷入にある飛地。
・滝ノ入(タキノイリ)赤久保の東。
・砂ノ入(スナノイリ)砂道下は赤沢の東端。すぐ南を入間川が流れ、砂、小石が多い。砂道上は県道を境にその北側になり、南むきの平に何戸かある。砂ノ入は砂道上の山林で南が中屋敷である。
・北ノ入(キタノイリ)
・久方入(クホウ、クガタ)久林向の南の山中が三つに分けられている。
西が名栗、南が青梅市、その境界に久方峰がある。
クガタという人もある。
・久通谷入(クジヤイリ)
・釜ノ入(カマノイリ)比良岩の南、その先は青梅市になる。
「滝壺のある谷の奥地」
・鹿ノ子入(カノコイリ)旧原市場と唐竹の間、大山の飛地。
・野口入(ノグチイリ)堂西の北。野口からの入。
・笹子入(ササゴイリ)
・種木入(クサギイリ)萩の尾の南に種木その西北に原、入がある。
・梅坪入(ウメツボ)明戸、田向の西南の厳しい山中。
・滝ノ入(タキノイリ)栃の沢の南、滝の上の入。
・牛骨入(ウシホネイリ)
・北ノ入(キタノイリ)倉掛の西にある飛地。上郷からは南になり、原市場方面から北ノ入になる。
・大沢入(オオサワイリ)於根の南にある広い場所で、その北半分は山中には珍しい平で、高い空のもとで昔の人は耕作に励んでいたことであろう。

大沢は飛村方面から西北へ入る沢をいったらしい。入は栄蔵寺辺になる
・大高沢入(オオタカサワイリ)
・小高沢入(コダカサワイリ)鏡岩の東北の深い山中。沢道を境に広い方が大高沢入、狭い方が小高沢入になっている。
・滝ノ入(タキノイリ)八王子の南、下中沢から杉本で中沢川に注ぐ滝の入川の水元。
・関ノ入(セキノイリ)戸丸の対岸。

参考：飯能市史資料編(地名・姓氏)より

第３回は、くぼ（久保、窪）は窪地について調べてみます。